第４５回中部大会参加作品

ヘロヘロのホアホア

愛知県滝高等学校

作者名：岡田淳（滝高校演劇部脚色）
出　典：『扉の向こうの物語』

キャスト

ゴン太	柿木　健応②
行　也	遠藤　武志②
マ　マ	大西　桜 ②
ピエロ	安友　智 ②
コック	三輪　俊博②
環境男	石田　和外①
子供◎	江口　恵美①
子供○	竹内　啓泰①
子供△	鬼頭　佳江②
白大臣	辰巳　歩 ①
黒大臣	森沢　友博②
書　記	尾関　理子②
兵　士	赤塚　洋信①
	伊藤　司 ①
	加藤　広樹①
	中田　知則①
父　親 歌う男	平塚　啓 ②

1　場

ゴン太　船が出るぞ！
行也　っz
ゴン太　船長、準備オーケーです。
行也　野郎ども、いかりをあげろ。
ゴン太　船長、いかり上げました。
行也　よーし、ゴン太丸、出航！
ゴン太　ところで船長、どこへ行くんですか。
行也　バッカモーン、海の男が行き先も知らずにどうする。
ゴン太　船長、船が揺れてますよ。舵とって下さい。
あー、何の、ほんの腕だめしよ。それで行き先はだなー、うーん、どこにしよう。そうだ！
行也　ピョコタン島だ。海賊の宝を奪いに行くぞ。
ゴン太　海賊の宝か。何があるかな、食い物がいいな。
バッカモーン、ここは海の難所なんだ。しっかり見張りをせんかい。
行也　あっ、はい！船長！岩が見えます。
ゴン太　よーし、とりかじいっぱい。
行也　船長、今度は氷山です。ぶつかりそうです。あー　（ぶつかる）
ゴン太　大変だ、水が入ってきたぞ。バケツでくみ出せ
行也　はい。（２人くみだす）
ゴン太　船長、あれは、島です。島が見えます。

行也　おお、あれこそはピョコタン島だ。上陸するぞ
行也　はいっ。
（２人上陸する）
ゴン太　ここがピョコタン島か。
海賊の宝だ、海賊の宝を捜せ。
父　（袖から２人を見ていた父親、２人に近づく）
やい、お前たち、ここはな私の島なんだ。このフック船長の島なんだ。この島で勝手なことはゆるさんぞ。トリャー！（行也に切りかかる）
父　なかなかやるな。トリャー、エイィ！
（しばし戦闘、父ゴン太に切り倒される）
お前たち、私は海賊なんかやっとるがな、実は正義の味方なんだ。悪い役人を懲らしめ、人々に自由をもたらす正義の味方なんだ！
行也　自由とは他人に与えられるものでない。
ゴン太　自由とは自らつかみとるものだ。
父　何だ、行也もゴン太もかっこいいことを言うじゃないか。
ゴン太　昨日テレビでやってたもん。
行也　いいもん見っけ。（虫眼鏡を持ってくる）
父　あー、それはピョコタン島の宝、レンズがダイヤでできている虫眼鏡ではないか。お前らなどに渡してなるものか。トリャー。
父　（切りかかる行也、ゴンタ、滅多切りにする）
ゴン太　ギャー！

ゴン太　やった、やった、ほりゃ、ほりゃ！
父　（父を蹴飛ばす、なかなか起きてこない）
父さん、父さん？
（突然起き上がり）父さんそろそろ仕事に行かないとな。校長先生に叱られちゃうよ。お前達と宿題の物語、作ってられるといいんだがな。
ゴン太　じゃ、行ってくるよ。
行也　行ってらっしゃい。バイバイ。
ゴン太　学校の倉庫っていろんな物があるんだね。
行也　「ユ、キ、ヤ」（五十音表をひっくり返す）
ゴン太　これ使って何かできないかな。
人形だ、いっぱいあるね。
行也　（コック、ピエロ、兵士、・・・）
ゴン太　通知表がある。こいつ◎ばっかりだ。
行也　こいつ△ばかりだ。お兄ちゃんといっしょだ。
ゴン太　うるさいな。
行也　あっ、扉があるよ。
扉だけの扉か。
ゴン太　（ゴルフボールが入ってくる）
行也　ボール。
ゴン太　ボール。
あっ、誰か来るよ。
ママ　（ゴン太、行也隠れる。ママ登場し、ゴルフボールを探していて、２人とはち合わせる）

ゴン太　ギャーッ。何よ、あんたたち、こんな所で何してんのよ。
行也　ごめんなさい、おばさん。
ママ　えっ、あっ、いいのよ、そんな謝らなくても。
ただ、ちょっと驚いただけだから、そんな「ごめんなさい、おばさん」だなんて・・・
ゴン太　（耳をつかみ）おばさん？
行也　ごめんなさい、お姉さん。（耳を放す）
ママ　私はこれでもね、ママって呼ばれているのよ。
本名は中田千恵って言うんだけど。メリー・ウィドウっていう喫茶店やってるのよ。陽気な未亡人っていう意味なの。
行也　ママは未亡人なの？
ママ　いいでしょ、そんなこと。それよりここにゴルフボール飛んでこなかった？
ゴン太　それならお兄ちゃんが・・・
ママ　（行也、ゴンタにゴルフボールを渡す）
ゴン太　なあに、どこにあるの？
ママ　（ボールを口の中に入れて）それならさっきちょっと、それもしかして、出しなさいよ！
ママ　（ゴン太、ボールを吐き出す）
行也　飲み込んだらどうするのよ。だいたいあんたたちこんな所で何やってるのよ。

ママ　物語作ってるんだ。
行也　物語？
ママ　うん、夏休みの宿題でね、物語作れって言われたんだ。それでお父さんがここの学校の先生をしてて、この倉庫に連れてきてくれたんだ。
行也　ふーん。で、どんな話？
ママ　あの五十表がね。
行也　これ？
ママ　そう、ひっくり返した言葉が本当になるんだ。あっ、もう何かひっくり返してあるわよ。
行也　「キ、ユ、ヤ」何これ？
ママ　行也、柏木行也。
行也　あんたの名前？
ママ　そうだよ。
行也　ねぇ、そっちの子は何て名前なの？
ママ　ゴン太。
ゴン太　ゴン太？ゴン太、ははっ、ははっ、だっさい！
ママ　うるさいな！（ピエロを投げる）
ゴン太　あら、あら、あら、魔法使いのピエロだって。
ママ　何で？
ゴン太　たぶん、この帽子が魔法使いなのよ。
行也　ふーん。
ママ　魔法使いのピエロか、（メモする）
行也　ねえ、私もそれ考えていい？
ママ　うん、いいよ。

ゴン太　そうね、この部屋の物を使うんでしょ。（そばの椅子に座る）あー、この椅子壊れてる。本当だ、バネがびよーんと出てる！
行也　何かいい名前ないかな。
ゴン太　バネがびよーん椅子！
ママ　バネがびよーん椅子？はっはっは。つまんないよ、お兄ちゃん。
ゴン太　ちょっと、そんなこと言ったら、お兄ちゃんがかわいそうでしょ。
ママ　いいよ、いつもなんだから。
ゴン太　そうね、これは落ち込み椅子よ。この椅子に座ると気分が滅入って人に愚痴ったりするのよ。
3人　（五十音表に「おちこみいす」と入れる）
ママ　（隅のプレーヤーをいじりながら）えーっと、これをこうして・・・
（ブラームス流れる）
ギャー！（ママ、止める）
これ、音量のつまみが壊れているのよ。あっ、ブラームスの子守歌だって。全然気づかなかった。
行也　こんなんじゃ眠れないよ。
ママ　眠るどころか起きちゃうわよね。これも使えない？
行也　そうだ、「眠れぬ演奏」は？
ママ　いいんじゃない。

ママ　（「ねむれぬえんそう」と入れる）
行也　ねえ、行也、いっぱい集めてあるけど、これのどれを使うの？
ママ　何も考えてない。
行也　何も考えてないの？それじゃ、これ全部使っちゃいましょう。
ママ　どうやって？
行也　できるわよ。それからここにいる私たちも話しの中に入れちゃうのよ。
ママ　舞台は学校の倉庫で、登場人物は男の子2人と喫茶店のママが・・・
ママ　喫茶店のママ？何か現実味がありすぎて面白くないわね。そうね、人さらいよ。
ゴン太　（「ひとさらい」と入れる）
ママ　私ががあんたたちを誘拐して、ここに閉じ込めちゃうの。
ゴン太　誘拐？
行也　そうよ。そうしたら、あんたたちどうする？
ゴン太　この魔法使いに頼んで、この机をライオンにしてもらう。
行也　ライオン、ガオー！
ママ　ライオンはママに噛みつくんだ。そうしたらママはどうする？
行也　そうね、「魔法をかけても机」が入るわ。
ママ　（「まほうをかけてもつくえ」と入れる）

ゴン太　それじゃ、この机はライオンにならないの？どこかに逃げなきゃ。
ママ　そうよ、さあどうする？
ゴン太　お兄ちゃん・・・
（絵の迷路を見て二人、うなづく）
（行也、「えのめいろ」と入れる）
行也　「絵の迷路」ってこれ？
ママ　うん、そう。
ゴン太　あっ、でもダメよ。だって、どうやって絵の迷路に入るのよ？
ママ　ここだよ。（扉だけの扉を開ける）
（暗転）

2　場

（3人、扉からのぞきながら）
行也　ここは？
ゴン太　お兄ちゃん、ここどこ？
ママ　どこなのよ？
ゴン太　ママ、そっちへ行っても大丈夫？
ママ　うん、全然平気よ。
行也　ママ、ここ来たことあるの？
ママ　ないわよ。
コック　（コック、踊りながら登場）

ゴン太　いやいやいや、おや、見かけない顔ですね。よろしい、サービスさせて頂きましょう。
本当？じゃ、僕、グレートサンデーチョコレートパフェ！
コック　もっといいものがあるんですよ。ちょっと、待ってて下さいね。（下手に引っ込む）
はいはーい。これなんですけどね。これはね、おかしのおかしって言うものなんですよ。
全員　（みんなでお菓子を食べる）
コック　わっはっはっはー
ママ　それでは、わたくし仕事があるんで。
（落ち込み椅子に座って）なぜあなたは死んでしまったの？あたしだって幸せな新婚生活を送りたかったわよ。夜1人で御飯食べたりするのがどんな気持ちだか、あんたたちに分かる？
ゴン太　ママ　（ママを突き倒す）ママ、落ち込み椅子だよ。
落ち込み椅子？私、今変なこと言わなかった？
行也　忘れるのよ。
ママ　でも、落ち込み椅子ってママが決めたんだよね
コック　それもそうよね。
ママ　ランタランタランラーンー
コック　あの、ここって、どういう所ですか？
ママ　えっ？
コック　だから、ここはどういう所なのかっていやー、どうと言われましてもねー。

ゴン太　くなれよ。（ふと後ろに気づく）君、今、息しとるね？
環境男　うん、してるよ、スーハー、スーハー。
いかん！いかん！その息が大気中の二酸化炭素を増加させ、地球の温暖化を促進させるんじゃ
行也　南極の氷が溶けて海面が上昇したら、泳がなくてはならんのだぞ。
環境男　おじさん、誰？
行也　わしか？わしはこういうもんじゃ。
ママ　（背中の張り紙を見せる）
環境男　環境問題にうるさいおじさん？
そう、わしは環境を守るために働いておるのじゃ。
行也　おじさん、えらいんだね。
環境男　えっ、えらい？わしがこんな仕事をしとるのも「えらい」というこの3文字を聞くためにやっておるようなもんじゃからな。その言葉を聞くと、おじさん、こうなんかうれしくて胸がときめいちゃう。（行也が種を踏んでいるのに気づく）あー、これだから素人は困る。そこには、わしが地球のグリーンプロジェクトのために植えたナンジャモンジャの種があったんじゃ。
だいたい、人間は木が1本育つのに何年の歳月がかかると思っとるんじゃ・・・・（ゴン太が

わたくし、これでもこの世界というものを当たり前だと思っているもんで、いきなり、どうと言われましても、ねー。そうです、例えば、あなたがお魚だったといたしましょう。
行也　えっ、僕ってお魚なんですか？
コック　いや、例えばの話しですよ。例えば、あなたがたがお魚だったといたしましょう。すると私はこの世界とあなたがたの世界を比べて説明できるじゃありませんか。水のかわりに空があったり、泳ぐかわりに歩かなくちゃいけないとか、釣り針がつーっと落ちてくるなんてことがないっていう具合にですよ。ところがですよ、私はあなたがたがその何なのかよく分からなくて、そのいったい何なんでしょう。
行也　何なんでしょうねえって言われたって、ねえ、ママ。
ママ　そう、それじゃあなたは何なのよ。
コック　いや、私ですか？私はね、こういうものなんですけどね。
行也　（後ろ向きになる。背中には張り紙）
ママ　陽気なコックさん？
コック　そうです、私は陽気なコックさんなんですよ。
お仕事、お仕事、ランタランタラーン！
環境男　大きくなれよ、ナンジャモンジャ！もっと大き

ゴン太　鼻をかんでいるのに気づく）紙を使っといるではないかー！
環境男　紙は使っちゃいけないの？
もちろんだとも、紙というのはな、もとをたどれば木なんじゃ、木から紙ができるんじゃ。
ゴン太　じゃあ、おじさん、ウンコした後、紙でふかないんだ。ついちゃうぞー。
環境男　じゃあ、原子力はどうじゃ？たかが、電気を作るために放射能に当たったら死んでしまうわ！
行也　じゃあ、おじさん、電気使わないんだ。
環境男　じゃあ、わしは怖くて、夜トイレに行けんではないか、オシッコもらしちゃう！それに、ケツふくときどうするんじゃ！ウォシュレットは電気使うからダメなんだろ！紙もダメじゃ！わしはどうすれば・・・葉っぱじゃ！葉っぱがある
ゴン太　おじさん、ダメだよ。葉っぱは切っちゃダメだもん。
環境男　わしはトイレの後、手でふかなあかんのかー？
ゴン太　変な人。
コック　ランタランタランタラン・・・・あれ、先ほどお客さんいらっしゃいませんでしたっけ？
ゴン太　帰っちゃったよ。
ママ　あの、ちょっと聞きたいことがあるんですけど
（行也、ゴン太、コックにいたずらする）
ちょっと行也、ゴン太を連れて向こうにでも遊

コック　びに行ってらっしゃい。
　　あー、それでしたら向こうにこーんな大きなフライパンがあるんですよ。
ママ　　あのー、背中の張り紙のことなんですけど、環境問題にうるさいおじさんは環境問題にうるさいんですけど。
コック　　そりゃあ、そうですよ。環境問題にうるさいおじさんは環境問題にうるさいんですから。
ママ　　何でわざわざそんな紙つけるのよ？
コック　　いやー、なぜと言われましてもねえー、いやあお客さん、何になさいましょう？
ゴン太　　（兵士登場し、ママを連れて退場）
コック　　コックさーん、こんなに大きな鍋があったよ。
ゴン太　　あー、それならこの間ジャガイモ百個ゆでましてね。
　　あれ、ママは？
行也　　あっ、あのかたですか？あのかたでしたら、こんな格好をした、そうです、おでんですよ、卵にハンペンにチクワーって感じの人ですよ。そんな人に連れて行かれました。
コック　　えっ、連れ去られた？おでんにママが？
行也　　はい、おでんに連れて行かれました。
ゴン太　　ゴン太、どうしよう？
行也　　ママはおでん食べたから、おでんに逆襲されたんだよ。

コック　　どうしよう。
　　おや、ひょっとして困ってるんですか？困ってるんでしょう、それでしたら、丘の上の広場なんかどうでしょう。
行也　　丘の上の広場？
コック　　はいっ、何でもこの世界を一番よく知っていらっしゃる方がいるらしいですよ。
行也　　そこって、どうやって行くんですか？
コック　　知りません。
子供△　　（子供３人、網・虫カゴを持って登場）
子供○　　おっちゃーん、アイスクリームちょうだい。
子供◎　　ぼく、オレンジジュース！
　　コックさん、私にはもっと頭のよくなる魚を料理して下さい。
コック　　はい、はい。あの背中の青いやつですね。
行也　　君達、丘の上の広場への道知ってる？
子供◎　　丘の上の広場？鎌倉幕府の滅亡１３３３年、大化の改新６４５年。
子供○　　お前、◎のくせに知らないんだろう。
子供△　　知らないんだー！
子供◎　　どうせあんたたちだって知らないんでしょ。
子供△　　あたし、知ってるもん！
行也　　本当？どうやって行くの？
子供△　　あそこに道があるだろう。それを左に曲がるんだ。そんで、右に曲がって、左に曲がって、・

行也　　・・
子供△　　何回曲がるんだっけ？
子供○　　わかんなくなっちゃったー。
行也　　僕聞いたことある。
子供○　　本当？
　　そこの道を左に曲がると魚屋さんがあって、その前の道をまっすぐ行って交差点を右に曲がってまっすぐ行くと白い塔があって、その前の道をずっとまっすぐ行くと坂があって、・・・
子供△　　その上が丘の上の広場なんだよ。
行也　　ありがとう。
子供○　　でも、どうしてお前、丘の上の広場へなんか行ったんだよ？
子供△　　この前、兵士の後をついて行ったんだ。
ゴン太　　ふーん。
子供△　　あっ、兵士が来た！兵士だ！
子供○　　隠れなきゃ。（隠れる）早く、早く！
　　（兵士が古田を連れていく）
ゴン太　　あれが兵士？
子供△　　うん。
行也　　本当だ。兵士って書いてあった。そういえば、君達も。
ゴン太　　○だ！△だ！なんでー？邪魔にならないの？
子供◎　　私は◎だからに決まってるじゃない。
子供△　　へんなのーって、なんではってないの？あたしのおじいちゃんやおばあさんや・・・ぜーんぶはってあるよ。
子供○　　お兄ちゃんも連れて行かれちゃうね。
ゴン太　　はってないと、連れて行かれちゃうの？
行也　　どこへ連れて行かれるの？
子供○　　丘の上の広場！
行也　　魚屋さんがあって、それでどう行くんだっけ？
子供○　　八百屋さんだよ。
子供◎　　そこの道を左に曲がると魚屋さんがあり、その前の道をまっすぐ行って交差点を右に曲がると白い塔があって、その前の道をずっとまっすぐ行くと坂があって、その上が丘の上の広場だ！
ゴン太　　すごーい。もう覚えてる。これちょうだいね！
行也　　はい、これ。（網を返す）お兄ちゃん、早く！
子供○　　あの、ありがとう。
子供◎　　気をつけてねー！
　　私って、賢い。
　　（暗転）

3　場

古田　　ここは？どうして私がこんな所に？
ピエロ　　僕がお前を知ったから。
古田　　知ったから？
ピエロ

黒大臣　そう、僕がお前を知ったからさ。さあ、大臣たち、始めよう。
古田　あなたっていい人なんですね。
白大臣　どういう意味です？
古田　あなたは結婚した後すぐ奥さんがあなたを愛していないことに気がついた。どうやら、奥さんは他に好きな人がいるらしい。
黒大臣　なんで、そんなこと言うんですか？
白大臣　あなたのことを何でも知っている。
黒大臣　あなたは、奥さんを責めなかった。
白大臣　いつかはあなたのことを好きになると・・・。
黒大臣　そう、あなたは待つことにした。
白大臣　いつまでたっても、あなたのことなど好きにならないのに。
古田　だが、しかし、今でも奥さんのことを愛している。
白大臣　そんなあなたをいい人といわずにおれますか。
古田　ちがう、どうやって調べたのかは知らないけどそれは表向きのこと。あの人が私を愛していないと知っていて結婚したのです。本当は私も別に結婚できない人を愛していた。
白大臣　うそをつくのはおよしなさい！そんなことあるはずないじゃないの！
古田　うそじゃない！私が愛していた相手というのは・・・
黒大臣　おだまりなさい！あなたはいい人です。ちがう、私はいい人なんかじゃない。おだまりなさい、あなたはいい人です。
古田　いい人なんかじゃない！
白大臣　あなたはいい人です。
黒大臣　いい人なんかじゃない！こんな優しい人は、正義の名において優しい人にするべきです。
古田　こんな思いやりのある人は、真実の名において思いやりのある人にすべきです。
白大臣　よって、正義と真実の名において、優しい思いやりのある人にすべきです。
黒大臣　何の話しですか？何を決めようとしているんですか？
古田　君を何にするのか決めているのさ。
ピエロ　僕を何にするかって？そんな。僕をあなた達の好きなものに変えることなんてできるものか。
古田　それが出来るんだ。
黒大臣　どうして？
古田　この方は魔法使いだから。
白大臣　魔法使いって、まさか！
古田　信じられないのなら、証拠をお見せしましょう
ピエロ　希望はある？
古田　じゃあ、金を出してみろよ。
ピエロ　おやすいごようさ。
古田　（札束が頭上より落ちて舞う）
ピエロ　・・・・。
白大臣　古田良男、お前を優しい思いやりのある人にする。（兵士、古田を連れていく）
黒大臣　そこの二人、隠れてないで出てきなさい。
行也　早く出てきなさい。
ゴン太　ここがどういう所だか、大体わかりました。僕たち人を探してるんです。喫茶店のママをしてるんです。それと僕たち、ふとしたきっかけでこの世界に迷い込んでしまったんです。
行也　もとの世界に帰りたい！
ピエロ　どうしたらもとの世界に帰れるんですか？
行也　そんなことは僕は知らない。さあ、大臣たち始めよう。
白大臣　僕の質問に答えて下さい！
黒大臣　だまりなさい！あなたってけなげな子ね。小さな頃にお母さんを亡くしたのに寂しそうな顔を見せない。
白大臣　おうちの事を手伝ったり、本当に感心だわ。
行也　けなげとか、感心とか、そんな事は関係ないよ僕は普通にやってるだけなんだ。
黒大臣　それに明るいところがいい。
白大臣　そういう家庭だと暗くなるでしょう。
黒大臣　それを感じさせない。
白大臣　これはお父さんもえらいと思うわ。
行也　そういう家庭だと暗くならなきゃいけないの？
白大臣　それに僕は明るくなんかないよ。
行也　そりゃそうよね、お母さんがいないんだもの、ふっと、寂しくなったりすることだってあるわよね。
黒大臣　別に寂しくなんかないよ。
白大臣　そうだ、そうやって寂しいのを我慢するんだ。それは君の優しさなんだよ。
黒大臣　こんなに優しい少年は、正義の名において「優しい少年」にすべきです。
白大臣　この少年は真実の名において「けなげで明るい少年」にすべきです。よって、正義と真実の名において「優しくけなげで明るい少年」にすべきです。
行也　僕はそんな事を決められるためにここに来たんじゃない。
白大臣　お黙りなさい。
ピエロ　次は、柏木ゴン太の番だ。
黒大臣　君は陽気だ。父に似ていつもはしゃぎまわっている。
白大臣　学校でも人気者で、でも、母の事を覚えていない。本当はお母さんに甘えたいのよね。
ゴン太　お父さんがいるからいいもん。
黒大臣　そうだ、そうやって寂しいのを隠すんだ。
白大臣　こんなに陽気な少年は正義の名において「陽気

黒大臣　な少年」にすべきです。
この少年は真実の名において「寂しさを隠す少年」にすべきです。
白大臣　よって正義と真実の名に　おいて「寂しさを隠した陽気な少年」にすべきです。
ゴン太　僕はそんなものにはならないよ。お兄ちゃんがついているもん。
黒大臣　ところが、君は変わってしまうんだ。
ゴン太　どうして？
白大臣　この方は魔法使いだから。
黒大臣　証拠をお見せしよう。希望はあるかい？
行也　その机をライオンに。
ピエロ　おやすいごようだ。（魔法をかけるが変わらない、もう一度かけるが変わらない）
黒大臣　なぜだ？
ピエロ　どうしてだ？なぜ変わらないんだ？
白大臣　ピエロ、落ち着きなさい。もう一度やってみるのよ。（変わらない）
黒大臣　なぜだ？なぜ・・・。
ピエロ　やっぱり変わらないよ。
ゴン太　分かった！「魔法をかけても机よ」だ。
ピエロ　魔法をかけても・・・机が変わらない。困る、困るじゃないか！
行也　何が困るの？
ピエロ　机がライオンにならないんだよ。魔法がかからないんだよ。
ゴン太　魔法がかからないと何が困るの？
ピエロ　それは・・・。僕は魔法使いなんだ。魔法が使えなくなったらどうすればいいんだ。
ゴン太　ピエロはいつもそこに座って魔法をかけてばっかりなの？他に何もないの？
ピエロ　そんな事ない。歌も聴きに行くし、眠るときもあるよ。それ以外何もしたことないんだ。
行也　じゃ、やりたいことやればいいだろ。
ピエロ　やりたいこと？そんなこと考えたことなかったずっと魔法ばかりかけてて、やりたいことなんて何もなかった。
行也　やりたいことないの？僕は野球もやりたいし、本読みたいし、外国とかいろんな所に行ってみたいし・・・。
ゴン太　僕もお菓子食べたいし、ファミコンしたいし、漫画読みたいし、テレビ見たいし・・・。
行也　やりたいことといっぱいで時間が足りないくらいだよ。
ゴン太　ピエロ、やりたいことないなんて変だよ。
ピエロ　僕のやりたいこと・・・。僕はいままで何をしてきたんだろう？何千何百の人々に魔法を見せつけ、そして、思い通りのものに変えてきた。
黒大臣　僕は何故そんなことをしてきたんだ？
ピエロ　ピエロ、どうしたというのです？それがあなたの役目なのです。
白大臣　ここはあなたの国だから。
ピエロ　僕が嘘つきと決めれば、その子は嘘つき。僕が意地悪と決めれば意地悪・・・。僕はそんなことを決める必要があったのか？
黒大臣　あなたは決めなければいけなかったのです。
白大臣　それに、あなただけが決めたんじゃないのよ。
ピエロ　そう、みんなで決めてきたのよ。
黒大臣　みんな？みんなだったか？みんなで決めたか？
ピエロ　確かに魔法を使ったのは僕だ。だが、どうして僕はお前達の言うことに従ったんだろう。
黒大臣　私たちはあなたを助けてきたのです。最後にはあなたが決めてきたのだ。
ピエロ　大臣・・・この糸は何だ？（ピエロの両腕には糸がつながれている）
白大臣　あなたは正義と真実の名において決定してきたのよ。今は少しだけ気が滅入っているだけよ。
ピエロ　この糸は何だと言っているんだ！
ゴン太　その糸でピエロをあやつっていたんだ。
黒大臣　何を言うんだ！
白大臣　黙りなさい！
ピエロ　それでも僕が決定してきた、お前達はそう言うんだな。そうか僕が決定してきたのか。
黒大臣　そう、ピエロ、あなたが決定してきたのです。
ピエロ　そうか、そうなんだな。書記、はさみを持ってきてくれ。
黒大臣　（書記、イスから立ち上がりはさみを持って行こうとする）
ピエロ　書記！
白大臣　僕の邪魔をするのは今日が始めてだな。
ピエロ　皮肉はよして下さい。
書記　今までにそうしたいことはなかったのか？それとも、そうしたくてもしなかったのか？書記、お前もだ。お前にも考えることは出来るだろう出来るはずだ。なぜそれを言わないんだ。
ピエロ　私は書記ですから。
書記　もういい。自分で取る。（黒の大臣、はさみを払い落とす。ピエロが取りに行こうとすると、大臣が糸でピエロを引っ張る）何をするんだ、はなせ！行也、ゴン太！早くこの糸を切ってくれ。
白大臣　ピエロ、バカなまねはおよしなさい。
黒大臣　兵士達！
（暗転）以下、声のみが聞こえてくる
行也　ゴン太！ゴン太！
ゴン太　お兄ちゃんが捕まっちゃったよ。
ピエロ　ゴン太、早く逃げないと君も捕まるぞ。
ゴン太　お兄ちゃん！
行也

「眠れぬ演奏」だよ！ゴン太！

4　場

ピエロ　ここまで来ればもう大丈夫。

ゴン太　お兄ちゃん捕まっちゃた。もしかして、ママは・・・

ピエロ　ママって中田千恵のこと？ああ、その人なら僕が「陽気な未亡人」に決めちゃった。

ゴン太　陽気な未亡人？何でそんなものに決めたの？

ピエロ　だって、あの人はいつも陽気じゃないか。

ゴン太　ママだって、悲しい時や淋しい時もあるよ。好きな人が死んじゃって寂しいって言ってた。それに僕が悪いことしたら怒ったよ。ママにも寂しいときとかあるよ。それに僕だって・・・。

ピエロ　でも陽気なときが一番幸せじゃないか。だから僕が「陽気な未亡人」にしてあげたんだ。いつも陽気で幸せなように。

ゴン太　いつも陽気だったらママじゃないよ。それにいつも陽気だったら幸せって思わないよ。だって僕、チョコレートパフェ好きだけど、いつも食べてたら飽きちゃうもん。

ピエロ　でもやっぱり寂しいのとか嫌じゃないか。僕はいつも丘の上の広場にいるか、歌を聴きに行ってるかの毎日だけど、飽きてなんかないよ。

ゴン太　じゃ、どうして糸を切ってくれって言ったの？

ピエロ　それは、・・・。大臣にあやつられているのが嫌だって、縛られてるのが嫌だって思ったんだ

ゴン太　みんなだって、縛られてるの嫌だよ。ピエロの魔法で縛られるの嫌だよ。

ピエロ　じゃあ、僕の魔法はいらないのか？みんなが幸せになるのに僕の魔法はいらないのか？

ゴン太　いつも陽気とかじゃなくて、泣いたり悲しんだりみんなと一緒にいろんなことしたり・・・。

ピエロ　僕お母さんいなくて、お母さんの顔もよく覚えてなくて寂しいけど、お父さんとかお兄ちゃんと一緒に遊んでいると楽しいよ。お父さん優しいんだ。みんなで泣いたり笑ったりしたいよ。だから、ピエロの魔法、もとに戻せないの？

ゴン太　わかんない。でも、どうにかしないと、どうにかしないとダメだよね。そうだ！行也の言ってた眠れぬ演奏って何？

ピエロ　眠れぬ演奏？眠ってる人でも起きちゃう演奏のことだと思うけど・・・。僕よく聞いてなかったから、わかんない。

ゴン太　眠っている人も起きちゃう・・・？そうか、そうだよ。それでみんなをもとに戻せるんだ。僕の魔法はね、人々の考える心を眠らせるんだ。だから、その眠りから覚ます眠れぬ演奏。違うかな？

ピエロ　レコードプレーヤー・・・。ピエロ、この国にレコードプレーヤーってある？

ゴン太　レコードプレーヤー？ああ、確か「歌う男」が持ってた。でも、あれはダメだよ。

ピエロ　ダメって？

ゴン太　音量のつまみがこわれててすごく大きな音しか出ないんだ。

ピエロ　それだよ。倉庫にあったのと同じだよ。きっとうまく行くよ。

ゴン太　そうだとして、うまくいって人々が考える心を取り戻す。それから？

ピエロ　説明すればいいじゃないか。ピエロが悪いわけじゃないんだもん。

ゴン太　みんな分かってくれるかな。

ピエロ　分かってくれるよ。あれっ、五十音表だ。これでひっくり返した言葉が本当になったんだ。さっき机がライオンにならなかっただろう。あれは「魔法をかけても机よ」って入れたからなんだ。これに「眠れぬ演奏」って入れたから、きっとうまくいくと思うんだ。

ゴン太　まだ、ひっくり返してない言葉があるよ。今からひっくり返しても本当になるかな？

ピエロ　なると思うよ。「あ・し・せ・た・・・」

ゴン太　「ふたり」っていうのはどうかな？

ピエロ　「ふたり」？「しあわせ」っていうのもある。「ふたり」と「しあわせ」で「二人は幸せになる」

ゴン太　そうだ！それだよ！ふたりっていうのはママ、お兄ちゃん、ピエロに、・・・

ピエロ　やめよう、ひっくり返すの、やめよう。二人だけじゃなくて、みんなが幸せにならなくちゃ。

ゴン太　うん。それじゃ、レコードプレーヤーかけに行こう。

ピエロ　僕一人で行くよ。兵士に見つかっても僕なら大丈夫。僕には乱暴しないんだ。いつも眠ってばかりの生活からやっと抜け出せそうなんだ。

ゴン太　いつも眠ってたの？

ピエロ　うん。眠っている間に夢を見るんだ。夢の中に出てきた人が扉からこの国に呼ばれるんだ。

ゴン太　じゃ、僕達も夢に出てきたの？

ピエロ　君達は別だよ。どうして君達が来たのか僕は知らない。

ゴン太　でも、名前知ってた。

ピエロ　それは魔法だよ。顔を見ただけで名前くらいは分かるんだ。

ゴン太　ふーん、ピエロすごいや！

ピエロ　じゃ、もう行くよ。

ゴン太　うん。

歌う男　（ピエロ入ってくる）
ピエロ　歌を1曲どうですか？
歌う男　それよりレコードプレーヤーはあるかい？
ああ、ありますよ。この小屋の奥です。かなり古いやつですがね。
ピエロ　ありがとう。
歌う男　それより、歌を1曲どうです？
ピエロ　じゃあ、いつものを頼むよ。
黒大臣　（歌を歌い出す。大臣と兵士達が走り込む））
ピエロはここに来たか？歌をやめないか。私をバカにする気か。
白大臣　兵士達！（歌い手を殴り、歌い手倒れる）
ピエロ　やめろ！大臣、お前達がなぜここに？
黒大臣　最悪の場合、ここに来るだろうと思ったのです
ピエロ　最悪の場合というのは、「眠れぬ演奏」を流すことか？
白大臣　そうです。この国がメチャクチャになってしまいます！
ピエロ　この国をメチャクチャにする？たしかに、そうかもしれない。でも、自由な国をここに作り上げたいんだ。
黒大臣　自由な国？今でも十分自由じゃありませんか、

5　場

ピエロ　あなたが作り上げた秩序の中で。
大臣、僕は歌が好きだ。毎日夜、ここに来て歌を聴くのが楽しみだった。それなのに・・・さっきのは何だ！この男は歌を歌いながらやられていった。兵士達に乱暴されても無抵抗で・・・。それは何故なんだ、大臣。理由はお前達も知っている。歌を歌うだけの人間と決められてしまったからだ。そうだろう？
白大臣　それが「眠れぬ演奏」を流す理由ですか？
ピエロ　大臣、僕たちは1からやり直そう。この国を自由な人々の国にしよう。
黒大臣　待って下さい。今、確かに兵士は乱暴をはたらいた。けれど、それはあなたのためにしたことでしょう。
ピエロ　僕のため？
白大臣　あなたを早く探し出すために、そうしなければならなかったのです。
ピエロ　あなたがバカなことをしないうちに見つけだす必要があったのです。
黒大臣　バカなこと？「眠れぬ演奏」を流すことが？人々に考える力を取り戻させることが何故バカなことなんだ？
ピエロ　あなたの幸せにならないからです。
白大臣　大臣、この国では僕だけが幸せになればそれでいいのか？
ピエロ　もちろんです。
黒大臣　他の者はどうなるんだ。
ピエロ　他の者はあなたの秩序の中にいることが幸せなのです。
白大臣　抵抗もできずに殴り倒されるのが幸せか？
黒大臣　幸せなのです。
ピエロ　それが真実です。
それで分かった。大臣、お前達の真実は、僕にとっての真実ではない。僕の真実をこの国に作りあげる。お前達の時代は終わったんだ。
黒大臣　ピエロ、気持ちはもう変わらないのだな。
ピエロ　（うなづく）
黒大臣　兵士達！取り押さえろ！
白大臣　待て！動くと魔法をかけるぞ！
ピエロ、帽子はどうしたの。帽子がないと魔法はかけられないわ。その帽子は私たちが持っている。決めるのは私たち、大臣。魔法をかけるのは・・・、
黒大臣　そう、だれでもよかったのだ。
白大臣　代わりはいくらでもいるのよ。
黒大臣　（ピエロ、走る）
行け！殺してもかまわん。
（ブラームス流れる。兵士達、立ち止まり崩れ落ちる。大臣達去る）
ピエロ　（人々出てくる）
人々　ねえ、みんな聞いてよ。僕の話しを聞いてよ。
お前が悪いんだ。お前が悪いんだ。
ピエロ　（口々にざわめく）
みんな聞いてくれよ。聞いてくれよ。
ピエロを撃つ）
歌う男　違うんだ！違うんだよ！
死ね！死ねよ！（再びピエロを撃つ、ピエロ死ぬ）
ゴン太　（人々去る。ママ残る。ゴン太登場）
ママ　ママ！
ゴン太！もう会えないかと思ったじゃない。
ゴン太　行也は？
ママ　お兄ちゃんは連れて行かれちゃった。
ゴン太　連れて行かれた？
あれ？ピエロ？どうしたんだよ。血だらけじゃないか。
ママ　さっき撃たれたのよ。ゴン太、もしかして、
ゴン太　「眠れぬ演奏」をかけたのって・・・。
ピエロだよ。ピエロが流してくれたんだ。
ママ　ピエロ、ピエロー！
ゴン太　ゴン太、行也を探しに行くわよ。
うん。ピエロ、バイバイ。
（ママとゴン太、去る）

やっぱり決められてたほうが楽でいいよな。
（人々、笑いだす）

6　場

ゴン太　（中央に行也がピエロの格好で座っている）
ママ　お兄ちゃん、見つけた。
白大臣　行也！
黒大臣　今回の事件は実に楽しかったわ。
ゴン太　「眠れぬ演奏」か。考えたものだな。
ママ　お兄ちゃん？何やってるんだよ。
行也　行也？早くこっちに来なさいよ。ピエロの帽子なんかかぶって何してるのよ？
白大臣　さあ、大臣達、始めよう。柏木ゴン太、お前を「気の弱い寂しがり屋の少年」にする。中田千恵、お前を「口うるさいおばさん」にする。
黒大臣　さあ、お行きなさい。すべてを忘れて。今度は「気の弱い寂しがり屋の少年」と、「口うるさいおばさん」としてな。
コック　（ママ、ゴン太、扉から出ていく）
歌う男　（コックなどの人々が出てくる）
白大臣　もとに戻してくれ！もう悩みたくないんだ！
黒大臣　俺もだ！頼む、戻してくれ！
白大臣　（人々、口々にざわめく）
歌う男　そちらの世界での住み心地はどうかしら？
白大臣　それとももう１度ここへ来て決められてみるか
歌う男　あなたたちももう１度決めてあげるわね。